入　選

未来は水で笑顔に

茨城大学教育学部附属中学校
三年　村　木　涼　音

私たちの日常生活は水で溢れています。例えば、朝起きたら顔を洗い、朝ご飯を食べます。そして、歯を磨いたり、トイレに行ったりします。毎日当たり前にしていること全てにたくさんの水が使われています。日本ではこれが当たり前です。しかし、世界ではどうでしょう。

私は、あまり水について深く意識したことがありませんでした。「節水を心がけよう。」「水を大切に使おう。」など、小さな頃からこのような言葉はよく目にするし、耳にもします。でも私はそれを重く受け止めず、その言葉の重要さを理解しないで過ごしてしまっていました。

しかし、その私を変えるきっかけをくれた出来事があります。それは、「アイシャ」という少女との出会いです。小学六年生の時に見た、日本ユニセフ協会が投稿している動画の中に彼女は存在していました。水汲みに費やす時間は毎日八時間、朝早くから夕方まで、家族のために砂漠を懸命に歩き続けます。しかし、手に入るのはわずか一人あたり五L未満の茶色い水だけです。（日本ユニセフ協会「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない」二〇二五年五月閲覧）彼女は十三歳で私とあまり変わりません。日本とエチオピアという住んでいる場所が違うだけです。本当は、学校に行きたいかもしれません。勉強したいかもしれません。でも家族のため、生きるために、水を汲むしかありません。茶色い水を飲むしかありません。彼女の悲しそうな表情は今でも鮮明に覚えています。画面上から、苦しい気持ちが伝わってくると感じました。アイシャの立場に立ち、その状況を考えてみると、毎日綺麗な水をなんの躊躇もなく使えていること。学校に行って勉強したり、友達と話せていること。これら全てが当たり前ではないことを理解しなければならないと思いました。

そして、日本に生まれ、恵まれた環境で生活できている今に感謝する必要があると感じました。

私たちにできることはたくさんあると思います。三千円の支援が汚れた水を安全な飲み水にする浄水剤七・〇二五錠（三五・一二五Ｌ分）に変わります。五千円の支援が下痢による脱水症から子供の命を守るＯＲＳ（経口補水塩）七四八袋に変わります。（日本ユニセフ協会「募金・支援」二〇二五年五月閲覧）私自身は、まだ中学生で収入を得ることはできません。しかし、大人になった時、自分の力で支援をしたいし、しなくてはならないと考えています。

大きなことじゃなくても、身近なことでできることはたくさんあります。家庭での水の使用は大きな影響を与えています。シャワーの時間を短くしたり、食器を洗う際に水を流しっぱなしにしたりしないこと。洗濯をするときには洗濯機の容量を最大限に活用し、必要な分だけを一度に洗うこと。このようなわずかな行動が水の使用量を抑えることができると思います。そして、これらの一人一人の小さな活動がこれからの未来をつくっていくのではないのでしょうか。

世界には水不足で困っている人がたくさんいること。この事実を私たちは重く受け止めるべきだと思います。私たちはそれを頭に入れ、できること、やらなければいけないことを考え、行動していかなければいけません。私は、アイシャのことを忘れません。直接助けてあげることはできないけれど、自分にできる最大限のことをしていきたいと思っています。その意思、行動の一つ一つが何かを変えるのではないでしょうか。私は、今の状況を知り、水を守れる人が少しでもいいから増えることを望みます。いつか、世界中のすべての人が安心して水を飲み、笑顔になれる日が来ることを願って…。